

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】			
事業所番号	4470300569		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	グループホーム “シルバーエイジ” Aグループ		
所在地	大分県中津市諸町1799番地		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成27年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域に根付いており、毎月町内清掃の参加や地域交流を兼ね誕生会や行事に地域の方に参加して頂いている。
 ・看護師を配置させ、利用者の日常の健康状態を把握し、状態変化や異常時等には併設病院との連携で早い対応ができ、安心して生活が送れるよう支援している。
 ・職員は学習意欲が高く、積極的に外部研修に参加したり、部署内勉強会を毎月開催し、認知症に関する情報を共有している。また、資格取得に意欲的である。
 ・職員は常に利用者本位を掲げ、自分が行動している事が利用者のためになっているのかを自問しながらケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者一人ひとりの潜在能力を見出し、穏やかな雰囲気の中でケアをしている。
 ・記録が詳細でケアの統一性があり、常に学ぶ姿勢でチームワークもよく、人材の教育が行われている。
 ・開設して10年目になるがマンネリ化がなくスタッフの教育ができています。
 ・利用者のこれまでの生活習慣を大切にしており、起床や食事時間など個別に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、名札の裏に運営理念を入れ、また施設内に掲示することにより、日々のサービスの提供場面において、繁栄されるように取り組んでいる。	事業所理念を管理者、職員の名札の裏や施設内の目に触れやすい場所に掲示し、共有しており、日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでのおやつ作り・行事等に地域の方が参加してくれている。また、定期的に大正琴の演奏の来所があり、地域との交流に努めている。地域行事予定表を自治会より頂き、交流会館へ外出できている。	地域の方が事業所に見え、おやつ作りや行事に参加したり、自治会の地域事業予定表を見て利用者が交流会館に出かけるなど、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流の機会を増やす工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方へ研修報告を行ったり認知症についての質問を受けたりしている。近隣の施設職員の見学、認知症の介護をしている家族の方等の相談対応を適宜している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で会議を開催し、事業所の報告とともに、参加メンバーからの質問や意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議では事前に資料を配布し、地域住民の自治委員が司会をすることで出席者からの発言も多く、意見要望等サービスの向上に活かしている。議事録は詳細でわかりやすく記録されていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	従業員数の変更に伴い、運営規定に関する相談等の市の担当者と連携を取りながら、協力を得ている。月1回空き状況の報告、3か月1回のGH連絡会での意見交換等が実施されている。	市の担当者は運営推進会議、GH連絡会に毎回参加している。また、電話や窓口に出向き、運営規定に関する相談や空き状況の報告するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということを、すべての職員が認識し実践している。	理念をいつも振り返りつつ身体拘束をしないケアにつとめている。また、利用者に「ダメよ」という言葉を使わないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、権利擁護の外部研修会に職員2名が参加し、部署内の勉強会で資料を読み合わせて伝達を行っており、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。		

事業者名:グループホームシルバーエイジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学ぶ機会はあるが実際に必要なケースにはあたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み等十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の日時の掲示や、家族会を開催し意見や要望等話し合い適切な対応をするよう努めている。施設内に意見箱を設け、利用者やご家族等の要望を伺うようにしている。利用者家族の満足度調査を年1回行ってサービス内容の評価を行っている。	年2回の家族会や運営推進会議など家族が集まりやすいように年間行事を掲示し、利用者、家族の意見をもらっている。満足度のアンケートを年1回収集している。利用者の家族との交流記録を作り、スタッフが共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例カンファレンス等で意見や要望を聞き、それを反映させ質の向上につなげる努力をしている。	人事考課制度を導入しており、職員の個性を反映している。定例のカンファレンスなど意見要望を聞く機会を設け、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常、職員のストレスや悩みを把握するように努めており、年2回個人面談を実施している。気分転換できるよう休憩室を確保している。やりがいや向上心を持って働けるよう資格取得等に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会に加え、法人内外の研修に積極的に参加している。また、個人指導としてOJTを取り入れている。今年度は新人教育に力を入れており、指導マニュアルの整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修会に参加した際、他事業所の職員とグループワークに参加したり、市内のグループホーム連絡会参加時、各事業所と情報交換ができ、また他施設見学研修を継続していることで、自施設の取り組みの参考にさせてもらっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会い心身の状態や本人の思いを把握し、安心して受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時には十分に傾聴し、どのような対応が出来るのかを事前に話し合い、また家族の状況を把握することによって信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を必要に応じて他のサービスの利用の調整対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食事時のテーブル拭きや食器拭き、果物の皮むき、洗濯物干し、掃除や花壇の手入れ等利用者の身体レベルに合わせて、協働しながら支えあう関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院へ出掛けたり、馴染みの知人には定期的な来所を依頼し継続的な交流が出来るよう働きかけている。夫の来所がある利用者には居室で2人でゆっくり過ごしてもらえるように努めている。	昔から利用している美容院へ出かけたり、馴染みの美容師が定期的に来るなど関係を継続している。また、夫婦や家族の関係がうまく続けられるようにし、接客マナーにも気を付けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように常に職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もホームで培われた関係を大切に、相談支援に努めている。(退所された方の家族が自宅まで来た柿や古布を届けてくれ、当時の思いを聴くことが出来たり、当院入院時のお見舞いや家人への声掛けを行っている。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けをし、言葉や表情等からそれとなく確認するようにしている。	認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式や個別の情報シートを活用している。アセスメント表は詳細で一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族等顔馴染みの関係を築き、一人ひとりの生活歴等の把握に努めている。また、個別の利用者情報ノートを作成し情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新人職員が増え、更に利用者一人ひとりの生活リズムを理解し行動の把握に努めている。入所から1週間の行動記録やアセスメント表を見直し、その方らしい生活が支援できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の立場に沿った介護計画になるようにアセスメントを充実させ全員で意見を出し合っている。定期受診の来所時に担当者会議を開き利用者の状況を報告し、家人の意向や要望を聞き作成をしている。	定期受診の来所時に担当者会議を開き、家族の協力も得られている。介護計画はケアノートや24Hシートなどを活用している。全職員で意見を出し合い、また参加できない職員からも意見を聞き、現状に即した介護計画を作成し実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを準備し、身体的状況及び日々の暮らしの様子等記録して職員の情報共有を徹底させている。また、個別記録を基に定期的に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院と連携を取りながら、医療処置の必要な場合でも生活リズムを保つために、出来る限り入院しないでホームでの暮らしが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が心身の力を出来るだけ発揮できるよう、地域の民生委員やボランティアへの協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人、家族、今までのかかりつけ医の了解の上、主治医は併設病院となり、家族同伴で定期的に受診している。受診時にはホームの情報を個別に提供している。	家族、本人の意向を聞き、受診ができている。家族との絆を大事にし家族同伴で定期受診を受けている。受診時にはホームの情報を個別に提供し、かかりつけ医との関係が築けている。また、受診結果の情報も家族と共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、入所情報を書式で提供し、入院中のケアの参考にしてもらっている。ホームでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチし、退院時は生活支援が十分にできるように病院から情報を提供してもらうように連携を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について関係者全体で話し合い、統一した指針を文書化し家族に説明をしている。看取りについて職員は勉強会を計画し、マニュアル作成を予定している。	重度化や終末期の在り方についての方針を文書化し、契約時に家族に説明している。看護職員が常駐しており、状況の変化に応じ、家族と話し合いながら、職員が方針を共有し実践している。また、家庭的な雰囲気の中でターミナルケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の転倒、窒息等緊急時の対応マニュアルを作成し各職員が内容を把握している。また、AEDの操作方法を年1回学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設病院実施の避難防災訓練に加え、ホーム単独での避難訓練を年3回実施している。災害時の食料品の備蓄の確保。地域の方には病院主催の避難訓練に参加してもらっている。	併設病院実施の避難防災訓練のほか単独で年3回避難訓練を実施している。法人は地域の消防団との連携ができている。GHの避難誘導、対応策のマニュアルがあり、記録をしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会等で個人情報に関する理解や情報の漏洩防止に務め、情報やプライバシーについては「利用目的」や「基本ルール」を掲示している。また、耳の不自由な利用者にはカードを利用する工夫をしている。	理念の中に「一人ひとりの尊厳」を掲げ実践している。耳の不自由な利用者に対する工夫としてカードを使用するなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分で決める場面作りを工夫し、本人の思いが少しでも反映できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間をずらしたり、午睡の誘導、裁縫やドリル、買い物や散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、本人や家人の要望、生活歴等に応じて身だしなみやおしゃれを楽しめるような支援をしている。（訪問美容師利用等）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器拭き等利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るようにしている。	潜在能力を見出し、梅干し作りをしたり、食事の盛り付けや食器拭きなど職員と一緒にしている。各自の使い慣れた食器を使用したり、職員も同じテーブルで同じ食事をする事で和やかな食事の雰囲気が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士が立てた献立の食事を提供し、10時15時にはおやつを提供。水分は1000～1500ccを目安に毎日チェックしている。摂取量低下時は家人の差し入れの他、好みの物や栄養補助食品で捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯の手入れやうがい等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。失敗した場合でも本人が傷つかないように、手早くまた、周囲に気付かれない等配慮しながら対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。チェック表には誰が見ても解るように暗号を決め記入している。飲水を記録し、排尿との関連を記録し、排泄の誘導などきめ細かな支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給、きな粉牛乳、おやつや散歩や運動、腹部マッサージ等行っている。昨年から手作りのカスピ海ヨーグルトを衛生的に作り、食べてもらっており、自然排便を促す効果が見られている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望の時間やタイミングの工夫、日曜日にも入れるよう配慮している。またぎが出来ない方にはSSの浴室を借りて、ゆっくり浴槽につかれるように職員2人で介助を行っている。足浴や清拭を取り入れている。	入浴が楽しめるように、利用者の希望の時間やタイミングを工夫し、浴槽に入るのが困難な方には併設のショートステーションの浴室を借り、職員2人で介助するなど、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中散歩や体操等で気持ちよく眠れるようまた、体調や希望等状況に応じ休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の効用、副作用、用量等について理解し、服薬の支援を行い症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう裁縫や果物の皮むき、ドリル、花壇作り、生け花等それぞれに働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、近くのスーパーにお菓子を買いに行ったり、天気の良い日に中津城へ散歩に出掛けたりしている。春と秋には家族にも声を掛け花見に出掛けている。	利用者の希望によりスーパーに買い物に行ったり、散歩に出かけたり季節の行事(祇園祭、花見)や、地域交流会館に出かけている。また、重度の利用者は屋上の花壇や菜園で外気浴をするなど工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望や力に応じた買い物で金銭トラブルのない様支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話やはがきを出せるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には、一般家庭で使用されている調度品等配置したり、手作りののれんや行事の写真などを飾ったり、居心地の良い環境を工夫している。季節ごとに花壇の花を摘んでリビングや玄関に飾っている。	共用の空間には、季節の花や手作りののれん、行事の写真、作品などが飾られており、明るく居心地よく過ごせる工夫がされている。面会の家族とのひと時を楽しく過ごせるよう職員の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に利用者が一人になったり、気のあった者同士でテーブルを囲んだり、ソファに座る事が出来たりと自由に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や使い慣れた家具、家族の写真や花などを飾り、本人が安心して過ごせる工夫をしている。家人来所時にはゆっくりくつろげる空間づくりとして、移動式のテーブルを用意し、一緒にお茶を飲めるようにしている。	居室には仏壇や使い慣れたタンス、置物、書籍、家族や活躍したところの写真、花などが飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を見極め混乱や不安を最小限にし、安心して生活が出来るように工夫をしている。出来る範囲内で本人が達成感を得られるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記六)】			
事業所番号	4470300569		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	グループホーム “シルバーエイジ” Bグループ		
所在地	大分県中津市諸町1799番地		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成27年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域に根付いており、毎月町内清掃の参加や地域交流を兼ね誕生会や行事に地域の方に参加して頂いている。・看護師を配置させ、利用者の日常の健康状態を把握し、状態変化や異常時等には併設病院との連携で早い対応ができ、安心して生活が送れるよう支援している。
 ・職員は学習意欲が高く、積極的に外部研修に参加したり、部署内勉強会を毎月開催し、認知症に関する情報を共有している。また、資格取得に意欲的である。
 ・職員は常に利用者本位を掲げ、自分が行動している事が利用者のためになっているのかを自問しながらケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Aグループと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、名札の裏に運営理念を入れ、また施設内に掲示することにより、日々のサービスの提供場面において、繁荣されるように取り組んでいる。	事業所理念を管理者、職員の名札の裏や施設内の目に触れやすい場所に掲示し、共有しており、日々のケアの中で実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでのおやつ作り・行事等に地域の方が参加してくれている。また、定期的に大正琴の演奏の来所があり、地域との交流に努めている。地域行事予定表を自治会より頂き、交流会館へ外出できている。	地域の方が事業所に見え、おやつ作りや行事に参加したり、自治会の地域事業予定表を見て利用者が交流会館に出かけるなど、地域とつながりながら暮らしていけるよう交流の機会を増やす工夫をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方へ研修報告を行ったり認知症についての質問を受けたりしている。近隣の施設職員の見学、認知症の介護をしている家族の方等の相談対応を適宜している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で会議を開催し、事業所の報告とともに、参加メンバーからの質問や意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議では事前に資料を配布し、地域住民の自治委員が司会をすることで出席者からの発言も多く、意見要望等サービスの向上に活かしている。議事録は詳細でわかりやすく記録されていた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	従業員数の変更に伴い、運営規定に関する相談等の市の担当者と連携を取りながら、協力を得ている。月1回空き状況の報告、3か月1回のGH連絡会での意見交換等が実施されている。	市の担当者は運営推進会議、GH連絡会に毎回参加している。また、電話や窓口に出向き、運営規定に関する相談や空き状況の報告するなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということを、すべての職員が認識し実践している。	理念をいつも振り返りつつ身体拘束をしないケアにつとめている。また、利用者に「ダメよ」という言葉を使わないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、権利擁護の外部研修会に職員2名が参加し、部署内の勉強会で資料を読み合わせて伝達を行っており、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。			

事業者名:グループホームシルバーエイジ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学ぶ機会はあるが実際に必要なケースにはあたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み等十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の日時の掲示や、家族会を開催し意見や要望等話し合い適切な対応をするよう努めている。施設内に意見箱を設け、利用者やご家族等の要望を伺うようにしている。利用者家族の満足度調査を年1回行ってサービス内容の評価を行っている。	年2回の家族会や運営推進会議など家族が集まりやすいように年間行事を掲示し、利用者、家族の意見をもらっている。満足度のアンケートを年1回収集している。利用者の家族との交流記録を作り、スタッフが共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例カンファレンス等で意見や要望を聞き、それを反映させ質の向上につなげる努力をしている。	人事考課制度を導入しており、職員の個性を反映している。定例のカンファレンスなど意見要望を聞く機会を設け、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常、職員のストレスや悩みを把握するように努めており、年2回個人面談を実施している。気分転換できるよう休憩室を確保している。やりがいや向上心を持って働けるよう資格取得等に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会に加え、法人内外の研修に積極的に参加している。また、個人指導としてOJTを取り入れている。今年度は新人教育に力を入れており、指導マニュアルの整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修会に参加した際、他事業所の職員とグループワークに参加したり、市内のグループホーム連絡会参加時、各事業所と情報交換ができ、また他施設見学研修を継続していることで、自施設の取り組みの参考にさせてもらっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会い心身の状態や本人の思いを把握し、安心して受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時には十分に傾聴し、どのような対応が出来るのかを事前に話し合い、また家族の状況を把握することによって信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を必要に応じて他のサービスの利用の調整対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食事時のテーブル拭きや食器拭き、果物の皮むき、洗濯物干し、掃除や花壇の手入れ等利用者の身体レベルに合わせて、協働しながら支えあう関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院へ出掛けたり、馴染みの知人には定期的な来所を依頼し継続的な交流が出来るよう働きかけている。夫の来所がある利用者には居室で2人でゆっくり過ごしてもらえるように努めている。	昔から利用している美容院へ出かけたり、馴染みの美容師が定期的に来るなど関係を継続している。また、夫婦や家族の関係がうまく続けられるようにし、接客マナーにも気を付けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように常に職員が調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もホームで培われた関係を大切に、相談支援に努めている。(退所された方の家族が自宅まで来た柿や古布を届けてくれ、当時の思いを聴くことが出来たり、当院入院時のお見舞いや家人への声掛けを行っている。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けをし、言葉や表情等からそれとなく確認するようにしている。	認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式や個別の情報シートを活用している。アセスメント表は詳細で一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族等顔馴染みの関係を築き、一人ひとりの生活歴等の把握に努めている。また、個別の利用者情報ノートを作成し情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新人職員が増え、更に利用者一人ひとりの生活リズムを理解し行動の把握に努めている。入所から1週間の行動記録やアセスメント表を見直し、その方らしい生活が支援できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の立場に沿った介護計画になるようにアセスメントを充実させ全員で意見を出し合っている。定期受診の来所時に担当者会議を開き利用者の状況を報告し、家人の意向や要望を聞き作成をしている。	定期受診の来所時に担当者会議を開き、家族の協力も得られている。介護計画はケアノートや24Hシートなどを活用している。全職員で意見を出し合い、また参加できない職員からも意見を聞き、現状に即した介護計画を作成し実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを準備し、身体的状況及び日々の暮らしの様子等記録して職員の情報共有を徹底させている。また、個別記録を基に定期的に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院と連携を取りながら、医療処置の必要な場合でも生活リズムを保つために、出来る限り入院しないでホームでの暮らしが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が心身の力を出来るだけ発揮できるよう、地域の民生委員やボランティアへの協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人、家族、今までのかかりつけ医の了解の上、主治医は併設病院となり、家族同伴で定期的に受診している。受診時にはホームの情報を個別に提供している。	家族、本人の意向を聞き、受診ができている。家族との絆を大事にし家族同伴で定期受診を受けている。受診時にはホームの情報を個別に提供し、かかりつけ医との関係が築けている。また、受診結果の情報も家族と共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、入所情報を書式で提供し、入院中のケアの参考にしてもらっている。ホームでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチし、退院時は生活支援が十分にできるように病院から情報を提供してもらうように連携を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について関係者全体で話し合い、統一した指針を文書化し家族に説明をしている。看取りについて職員は勉強会を計画し、マニュアル作成を予定している。	重度化や終末期の在り方についての方針を文書化し、契約時に家族に説明している。看護職員が常駐しており、状況の変化に応じ、家族と話し合いながら、職員が方針を共有し実践している。また、家庭的な雰囲気の中でターミナルケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の転倒、窒息等緊急時の対応マニュアルを作成し各職員が内容を把握している。また、AEDの操作方法を年1回学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設病院実施の避難防災訓練に加え、ホーム単独での避難訓練を年3回実施している。災害時の食料品の備蓄の確保。地域の方には病院主催の避難訓練に参加してもらっている。	併設病院実施の避難防災訓練のほか単独で年3回避難訓練を実施している。法人は地域の消防団との連携ができている。GHの避難誘導、対応策のマニュアルがあり、記録をしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会等で個人情報に関する理解や情報の漏洩防止に務め、情報やプライバシーについては「利用目的」や「基本ルール」を掲示している。また、耳の不自由な利用者にはカードを利用する工夫をしている。	理念の中に「一人ひとりの尊厳」を掲げ実践している。耳の不自由な利用者に対する工夫としてカードを使用するなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分で決める場面作りを工夫し、本人の思いが少しでも反映できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間をずらしたり、午睡の誘導、裁縫やドリル、買い物や散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、本人や家人の要望、生活歴等に応じて身だしなみやおしゃれを楽しめるような支援をしている。（訪問美容師利用等）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器拭き等利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るようにしている。	潜在能力を見出し、梅干し作りをしたり、食事の盛り付けや食器拭きなど職員と一緒にしている。各自の使い慣れた食器を使用したり、職員も同じテーブルで同じ食事をする事で和やかな食事の雰囲気が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養士が立てた献立の食事を提供し、10時15時にはおやつを提供。水分は1000～1500ccを目安に毎日チェックしている。摂取量低下時は家人の差し入れの他、好みの物や栄養補助食品で捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯の手入れやうがい等の支援をしている。		

事業者名: グループホームシルバーエイジ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。失敗した場合でも本人が傷つかないように、手早くまた、周囲に気付かれない等配慮しながら対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。チェック表には誰が見ても解るように暗号を決め記入している。飲水を記録し、排尿との関連を記録し、排泄の誘導などきめ細かな支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給、きな粉牛乳、おやつや散歩や運動、腹部マッサージ等行っている。昨年から手作りのカスピ海ヨーグルトを衛生的に作り、食べてもらっており、自然排便を促す効果が見られている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望の時間やタイミングの工夫、日曜日にも入れるよう配慮している。またぎが出来ない方にはSSの浴室を借りて、ゆっくり浴槽につかれるように職員2人で介助を行っている。足浴や清拭を取り入れている。	入浴が楽しめるように、利用者の希望の時間やタイミングを工夫し、浴槽に入るのが困難な方には併設のショートステーションの浴室を借り、職員2人で介助するなど、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中散歩や体操等で気持ちよく眠れるようまた、体調や希望等状況に応じ休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の効用、副作用、用量等について理解し、服薬の支援を行い症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう裁縫や果物の皮むき、ドリル、花壇作り、生け花等それぞれに働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、近くのスーパーにお菓子を買いに行ったり、天気の良い日に中津城へ散歩に出掛けたりしている。春と秋には家族にも声を掛け花見に出掛けている。	利用者の希望によりスーパーに買い物に行ったり、散歩に出かけたり季節の行事(祇園祭、花見)や、地域交流会館に出かけている。また、重度の利用者は屋上の花壇や菜園で外気浴をするなど工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望や力に応じた買い物で金銭トラブルのない様支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話やはがきを出せるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には、一般家庭で使用されている調度品等配置したり、手作りののれんや行事の写真を飾ったり、居心地の良い環境を工夫している。季節ごとに花壇の花を摘んでリビングや玄関に飾っている。	共用の空間には、季節の花や手作りののれん、行事の写真、作品などが飾られており、明るく居心地よく過ごせる工夫がされている。面会の家族とのひと時を楽しく過ごせるよう職員の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に利用者が一人になったり、気のあった者同士でテーブルを囲んだり、ソファに座る事が出来たりと自由に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や使い慣れた家具、家族の写真や花などを飾り、本人が安心して過ごせる工夫をしている。家人来所時にはゆっくりくつろげる空間づくりとして、移動式のテーブルを用意し、一緒にお茶を飲めるようにしている。	居室には仏壇や使い慣れたタンス、置物、書籍、家族や活躍したところの写真、花などが飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を見極め混乱や不安を最小限にし、安心して生活が出来るように工夫をしている。出来る範囲内で本人が達成感を得られるように努めている。		